

文教常任委員会行政視察（概要）

1 視察日

令和4年7月25日（月）～26日（火）

2 視察項目（視察都市）

- ・文化振興について（東京都国分寺市）
- ・高尾山学園について（東京都八王子市）

3 参加委員

委員長：長谷川 浩

委員：福丸 孝之、永田 真樹、山下 慶喜、坂口 康博

4 調査概要

国分寺市では、平成19年に文化振興条例を制定、文化振興計画においては、長期的目標として、「歴史文化」、「芸術文化」、「環境文化」、「社会文化」を目指すべきまちの姿とし、その実現に向けて取り組んでいる。文化振興施策の推進に当たっては、市民活動団体との協働、連携に力を入れており、市民組織となる文化振興市民会議を設置して、関係団体からの意見聴取に努めている。

また、音楽ホールである「いずみホール」や、駅前のタワーマンションにはホールと屋外広場を有する「cocobunji プラザ」という文化振興施設があり、文化振興計画の中期的目標である「文化に触れる」、「文化をつなぐ」、「文化をはぐくむ」、「文化を広める」ための施設としての役割を担っており、身近な文化施設として多くの市民に活用されている。

八王子市では、不登校児童・生徒が国や東京都の割合を上回る状況を危惧した市長のリーダーシップのもと、平成16年4月に、不登校児童・生徒に合った教育課程を実現できる小中一貫教育校として、八王子市立高尾山学園を開校した。

高尾山学園では、不登校となった子どもが通いやすいよう、一人ひとりに対応した学習内容、学習方法を取り入れることに加え、個々の心に寄り添った工夫や配慮に努めている。また、心の安定を図りながらの学習支援により、基礎学力の向上を目指すとともに、集団的・体験的な活動の機会を多く取り入れている。



八王子市にて

5 委員長所感

国分寺市では、文化振興計画の中に長期的目標、中期的目標を定め、体系的に取り組むとともに、駅前に文化施設を設置することで文化振興を市民に身近なものとしており、本市でも、歴史的な文化遺産を生かした魅力向上のため、計画的な文化振興施策が必要と感じた。

八王子市立高尾山学園は、児童・生徒が、いつでも、どこでも、大人に気軽に話ができる環境づくりのため、東京都採用の教職員のほかに、市独自でも採用して配置するなど、児童・生徒の自己肯定感の醸成に力を入れている。最近増えてきた不登校特例校の中でもパイオニアであり、対応していただいた校長先生からは新しいことにチャレンジする姿勢がうかがえた。不登校という課題への対応を考える上で参考になった。